

水産業の父の

魚類図

加賀藩出身の関沢明清



サケの養殖技術などを日本に伝える「水産業の父」と呼ばれる加賀藩士出身の関沢明清が明治時代、千葉県館山の旧家に送った書状が1日までに見つかった。関沢が水産業を志す生徒を漁の盛んな館山に派遣して実習を積み重ねていくことがうかがえるほか、生徒を受け入れてくれた礼として精密な魚類図を贈っていたことも分かった。関沢の水産業発展への情熱が伝わる貴重な資料だといつ。



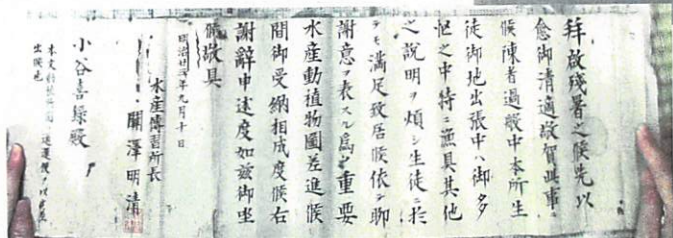
関沢が小谷家に贈ったものと同じ「日本重要水産動植物之図」(金大附属図書館蔵)

ワイド石川

ワイド石川

書状は、館山市指定有形文化財の「小谷家住宅」で地元のNPO安房文化遺産フォーラム関係者が確認した。1890(明治23)年9月10日付の小谷家当主宛で、「生徒御地出張中は、多忙の中に漁具その他の説明を煩し、生徒に於ても満足致して居り候」などと直筆で書かれており、関沢が所長を務めていた水産伝習所の生徒が江戸時代から続く網元だった小谷家に滞在している金沢工大の吉道悦子

千葉の網元に贈呈 漁業へ情熱示す



関沢が小谷家に宛てた書状(NPO安房文化遺産フォーラム提供)

関沢 明清(1843~97) 加賀藩士関沢安衛門の次男。1866年、長崎に留学し、帰国後、明治政府に仕えた。ウィーン万博、フィデルプラタ万博を視察した。魚の養殖法や漁網編み機を持ち帰り、缶詰製造や捕鯨銃の採用、遠洋アロ漁業の普及に尽くした。水産伝習所(東京水産大の前身)の初代所長。北關新聞社から「関沢明清」若き加賀藩士、夜明けの海へが発刊されている。

教授(文芸社会学)によると、図は1888年、農商務省が複製制作し、現在、小谷家が保管するほか、公的図書館では金大附属図書館が唯一の蔵。金大の前身の旧制四高が1917(大正6)年に購入し、授業で使っていたとみられる。吉道教授によると、従来、この魚類図が関沢と関連付けて考えられてきたが、今回の発見で関沢が図を贈答品に用いていたことが分かったのに加え、図の出版当時、関沢が製作元の農商務省に勤務していたことから、関沢がこの図の製作に関わった可能性が大きいという。吉道教授は「書状の発見が水産業の発展に尽くした関沢の功績が広まるきっかけになればうれしい」と話した。